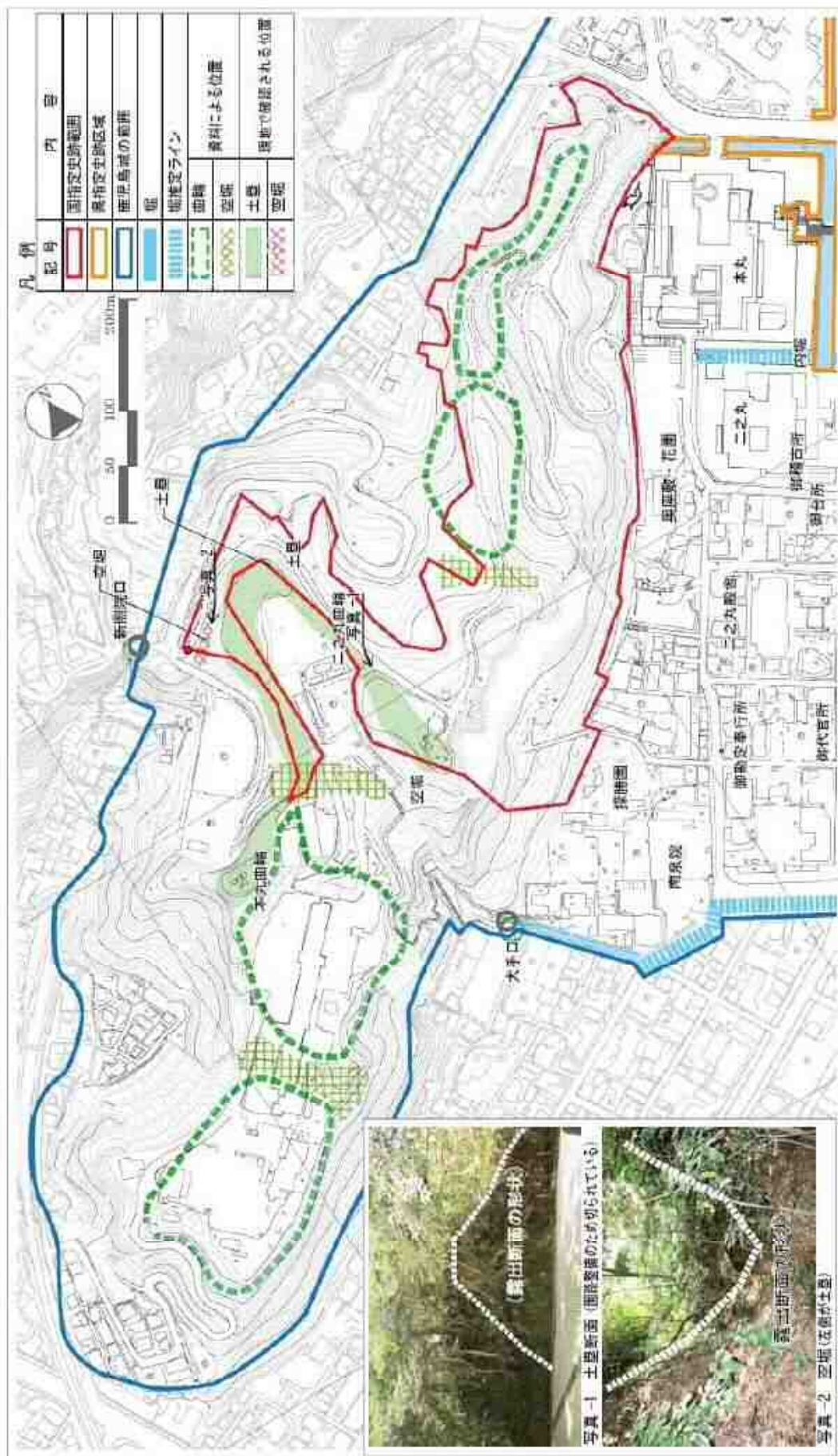


4. 鹿兒島（鶴丸）城跡の現状

1) 遺構の現状

①城山の遺構の現状

城山の遺構は空堀と土塁がある。土塁は高さ10m、長さ400m程度と大規模なものが残っている。

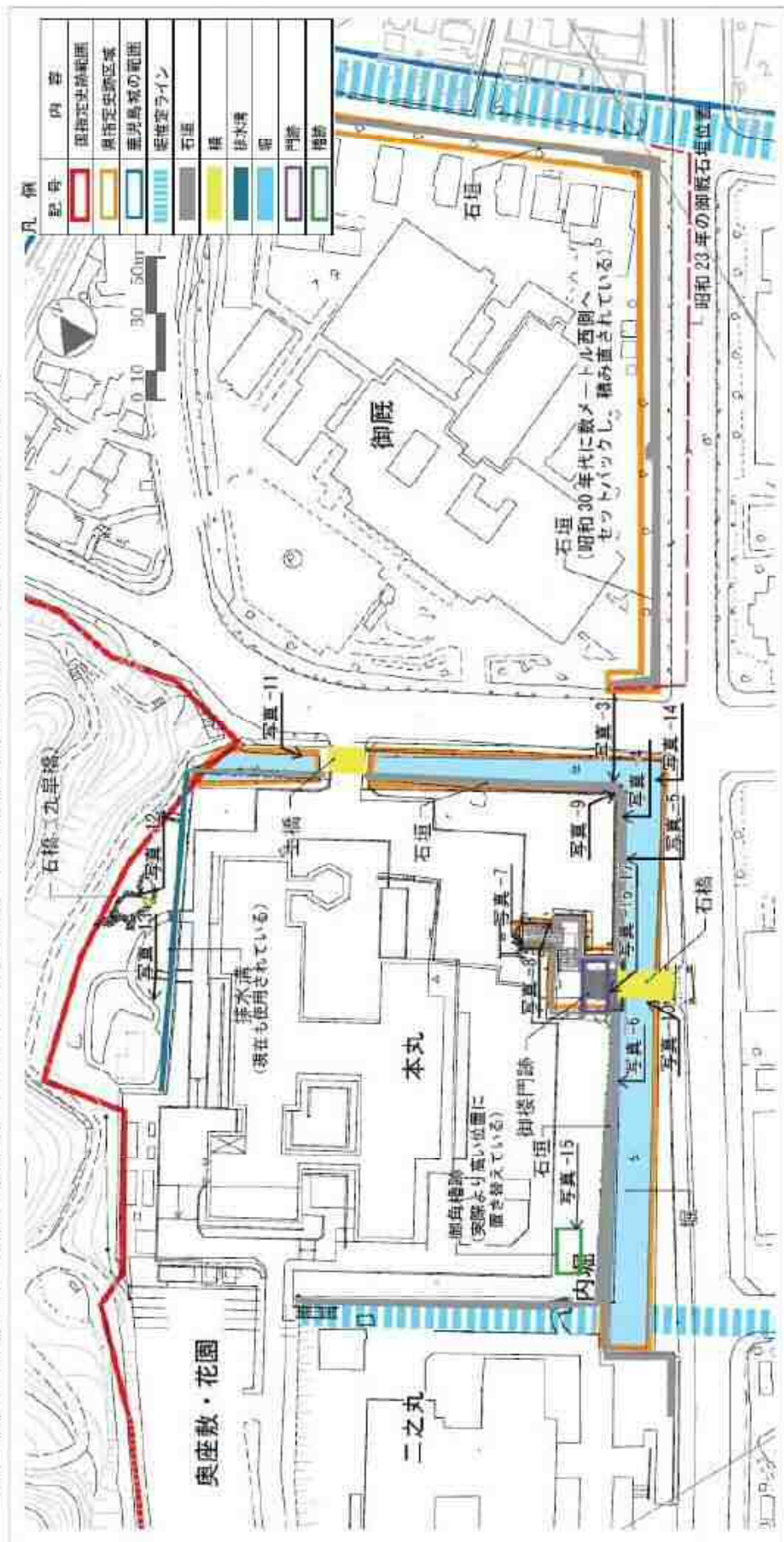


図Ⅱ-18 城山の遺構位置図

②本丸・二之丸・御厩の遺構の現状

現状で確認ができる遺構は、石垣、土橋、橋〔石橋（九草橋）^(注1)、排水池、堀、及び御楼門跡、御角櫓跡である。橋は御楼門前の石橋と北御門前の土橋、及び茶室前の池に架かる石橋（九草橋）がある。御厩でも東側、北側に石垣が確認できる。御角櫓は展示されている礎石等は当時のものだが、実際にはあった場所（遺構面）より高い位置に置き替えている。

注1) 石橋（九草橋）は、以前本丸内にあった池に架けられていた。その飛騨池跡跡園で使用し、現在の場所に移されている。



図III-19 本丸・二之丸・御厩の遺構位置図

本丸の遺構写真 (1)
(石垣)



写真-3 野面積み (割石の乱積み)



写真-4 割石積み (粗加工石材の布積み②)



写真-5 切石積み (精加工石材の布積み②)



写真-6 粗加工石積み (粗加工石材の布積み①)



写真-7 亀甲 (崩し) 積み



写真-8 出隅の算木積み



写真-9 北東鬼門の隅欠
※P121 (鹿児島城石垣の特徴) 参照

本丸の遺構写真 (2)

(橋)



写真-10 御楼側出入口 (石橋)



写真-11 土橋

(排水溝)



写真-12 御庭の石橋 (九臯橋)



写真-13 排水溝

(堀)



写真-14 北側の堀

(御角櫓跡)



写真-15 御角櫓跡の遺構展示

(御楼門跡)



写真-16 御楼門の礎石



写真-17 御楼門の礎石 (鏡柱の礎石)

③その他鹿兒島城周辺の遺構の現状

その他鹿兒島城周辺の遺構については、名山小学校の北側及び東側に石堀が確認できる。



④古写真の遺構と現況遺構の比較一覧

古写真（明治4年頃撮影とされる）と現況写真を下表で比較した。石垣は当時の状態で遺存しているが、笠石より上の築地塀は石塀に変わっている。御楼門は礎石と石貼りの床がそのままであるが、北御門前の橋は調査で土橋とされている。

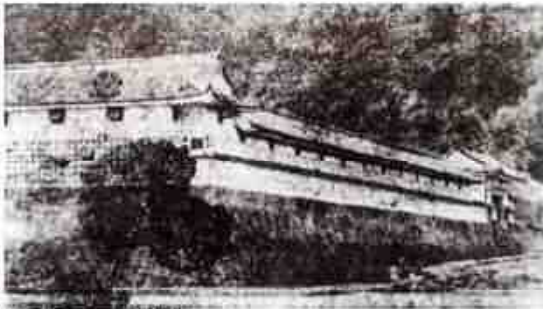



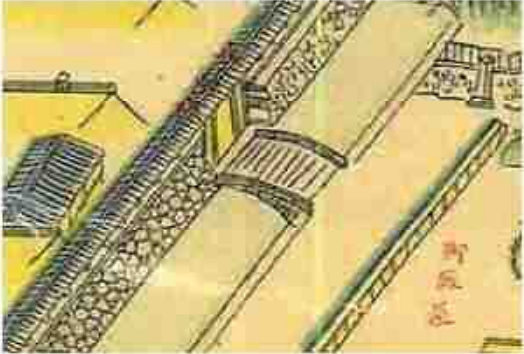

表Ⅲ-4 古写真の遺構と現況遺構比較表（本丸東側御楼門付近）

古 写 真	現 況 写 真
 <p>北東より城前面 「島津御本丸前面景」（鹿児島県立図書館所蔵）</p>	 <p>国道10号に面している</p>
 <p>上写真拡大</p>	 <p>案内板・柵が設けられている （市道 草牟田城山線に面している）</p>
 <p>御楼門・御兵具所正面 「明治初年の鶴丸城」（鹿児島県立図書館所蔵）</p>	 <p>国道10号に面している</p>

表Ⅲ-5 古写真の遺構と現況遺構比較表（屋形（居館）内）

古 写 真	現 況 写 真
 <p data-bbox="229 801 791 869">屋形（居館）内の御小納戸・二之間・牡丹之間・御池 「島津御本丸御書院景」（鹿児島県立図書館所蔵）</p>	 <p data-bbox="815 741 1347 869">庭園風に造られている</p>
 <p data-bbox="229 1328 791 1395">屋形（居館）内の麒麟之間・鷺之間・御池 「島津御本丸池畔景」（鹿児島県立図書館所蔵）</p>	 <p data-bbox="815 1265 1347 1395">樹木で建物遺構の平面表示を試みている</p>
 <p data-bbox="229 1854 791 1917">屋形（居館）内の御池 「島津御本丸庭園景」（鹿児島県立図書館所蔵）</p>	 <p data-bbox="815 1809 1347 1917">庭園風に造られている</p>

表Ⅲ-6 古写真等の遺構と現況遺構比較表（石垣、橋）

古 写 真	現 況 写 真
 <p data-bbox="233 701 427 730">御兵具所（多門櫓）</p>	 <p data-bbox="810 730 1177 792">現在も角欠けが見られる 石垣は原状のとおり遺存している</p>
 <p data-bbox="245 1328 587 1357">御楼門前の石橋（撮影年代不詳）</p>	 <p data-bbox="818 1301 1090 1330">右写真とほぼ変わらない</p>
 <p data-bbox="252 1839 722 1901">北御門前の橋「天保14年城下絵図」（拡大） 太鼓橋が確認できる</p>	 <p data-bbox="818 1839 1090 1868">現況は土橋となっている</p>

※北御門の橋については、古写真がないため絵図と比較する。

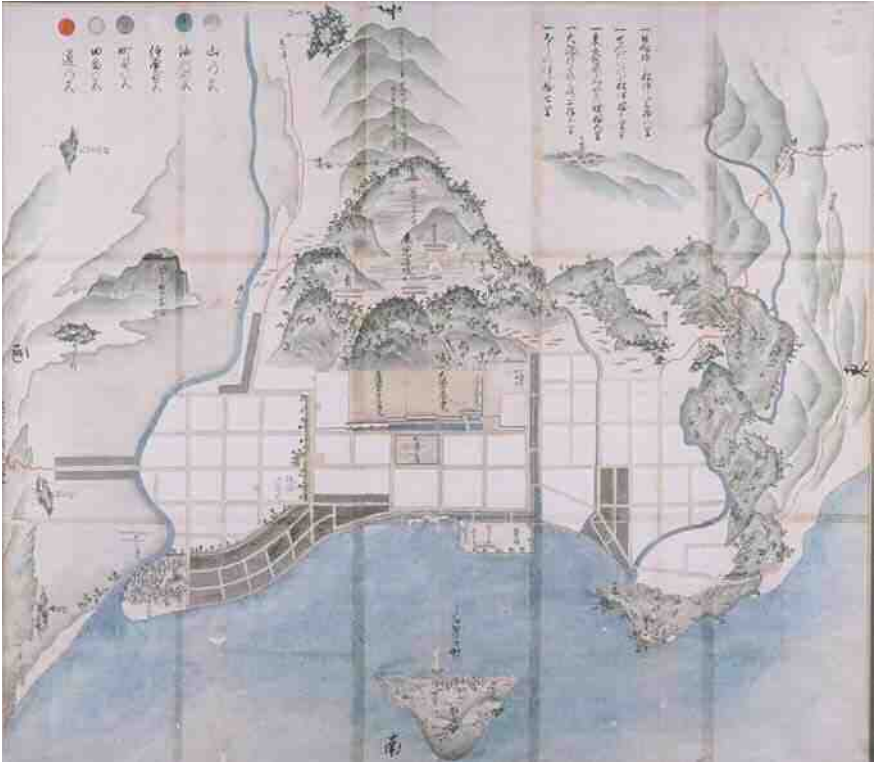

※『鹿児島城絵図控』には「此門並長屋焼失」とあり元禄の大火により門と長屋が焼失したことが分かる。

⑤ 絵図等一覧



鹿児島（鶴丸）城が描かれている絵図を年代順に整理している。

元禄の大火によって、築城当時の建物は全て失われている。それ以降建て替えられた城は、天保14年城下絵図が最も詳しく描かれており、現在遺存する遺構に符合する。


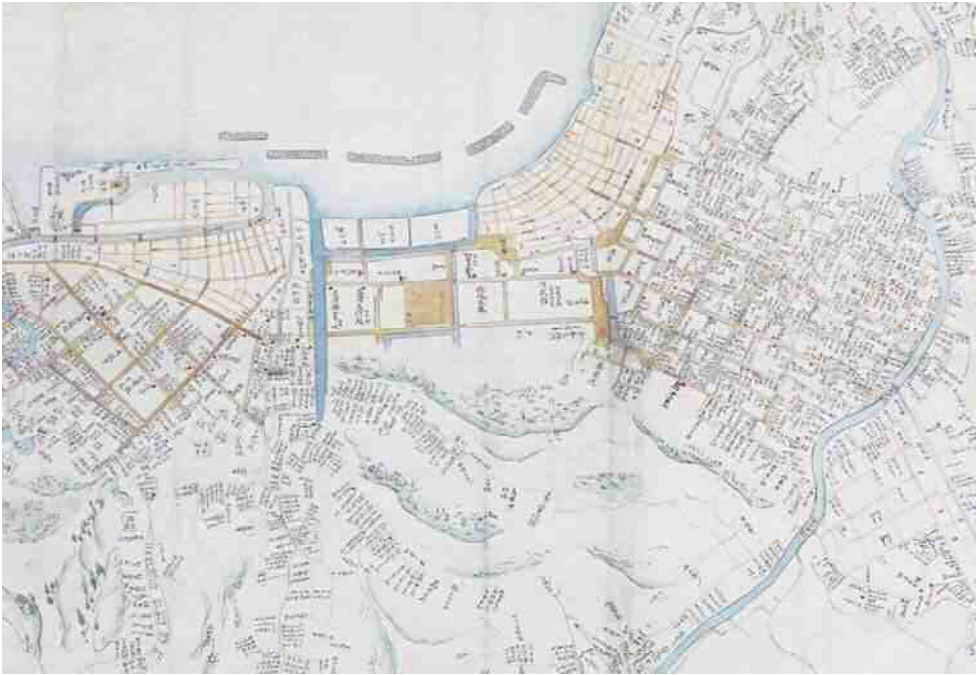
表Ⅲ-7 絵図一覧表 (1)

<p>寛文 10 年 (1670)</p> <p>〔薩藩御城下絵図〕 (鹿児島県立図書館蔵)</p>	
<p>元禄 9 年 (1696)</p> <p>〔鹿児島城絵図控〕 (東京大学史料編纂所蔵)</p>	



表Ⅲ-7 絵図等一覧表 (2)

<p>宝暦 6 年 (1756)</p> <p>〔薩摩国鹿兒島城絵図〕 (東京大学史料編纂所所蔵)</p>	
<p>正徳 3 年 (1714)</p> <p>〔正徳三年御城下絵図〕 (鹿兒島県立図書館所蔵)</p>	



表Ⅲ-7 絵図等一覧表 (3)

<p>文政4年 (1821)</p> <p>〔藩政時代鹿兒島市街図〕(部分) (鹿兒島県立図書館所蔵)</p>	
<p>文政4年 (1821)</p> <p>〔鹿兒島御城下明細図〕(部分拡大) (鹿兒島県立図書館所蔵)</p>	

表Ⅲ-7 絵図等一覧表 (4)

<p>文政 5 年 (1822)</p> <p>「文政 5 年鹿兒島城絵図」(部分) (鹿兒島大学付属図書館所蔵)</p>	
<p>天保期頃</p> <p>「藩政時代鹿兒島市街地図」(部分) (東京大学史料編纂所所蔵)</p>	

表Ⅲ-7 絵図等一覧表 (5)

<p>天保 14 年 (1843)</p> <p>〔切絵図〕(部分) 〔薩藩沿革地図〕所収)</p>	
<p>天保 14 年 (1843)</p> <p>〔天保年間鹿兒島城下絵図〕 (鹿兒島市立美術館所蔵)</p>	


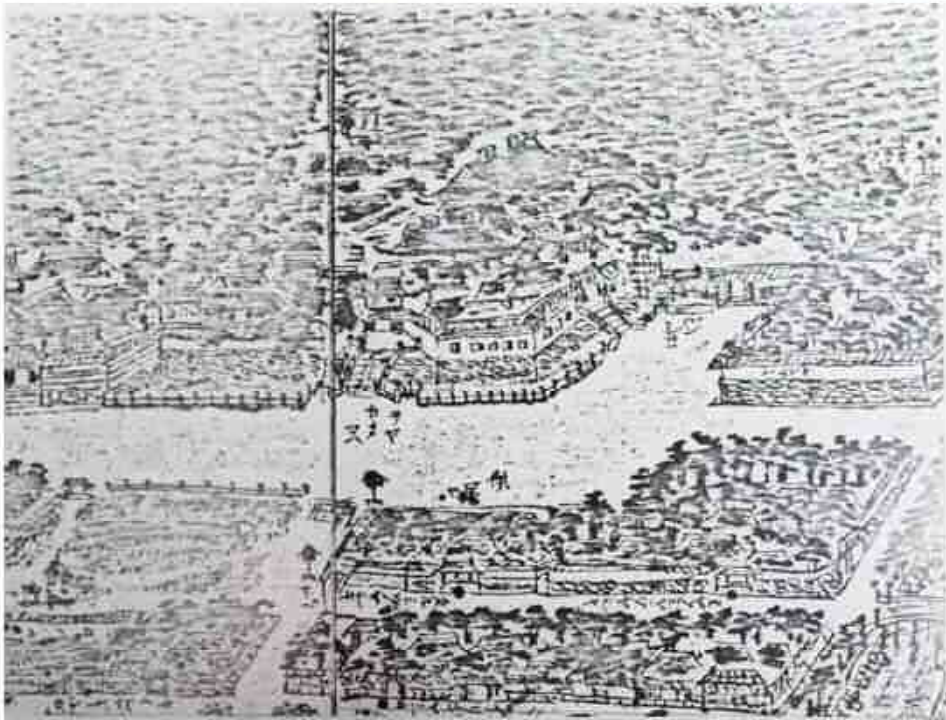
表Ⅲ-7 絵図等一覧表 (6)

安政 6 年
(1859)

「旧薩藩御城下絵図」(部分)
(鹿児島県立図書館所蔵)



表Ⅲ-7 絵図等一覧表 (7)

<p>年代不明</p> <p>「鹿児島略図」(部分) 『鹿児島ふり』所収</p>	
<p>年代不明</p> <p>「城山南面屋形前之図」(部分) 『紀行篇画帖』所収</p>	

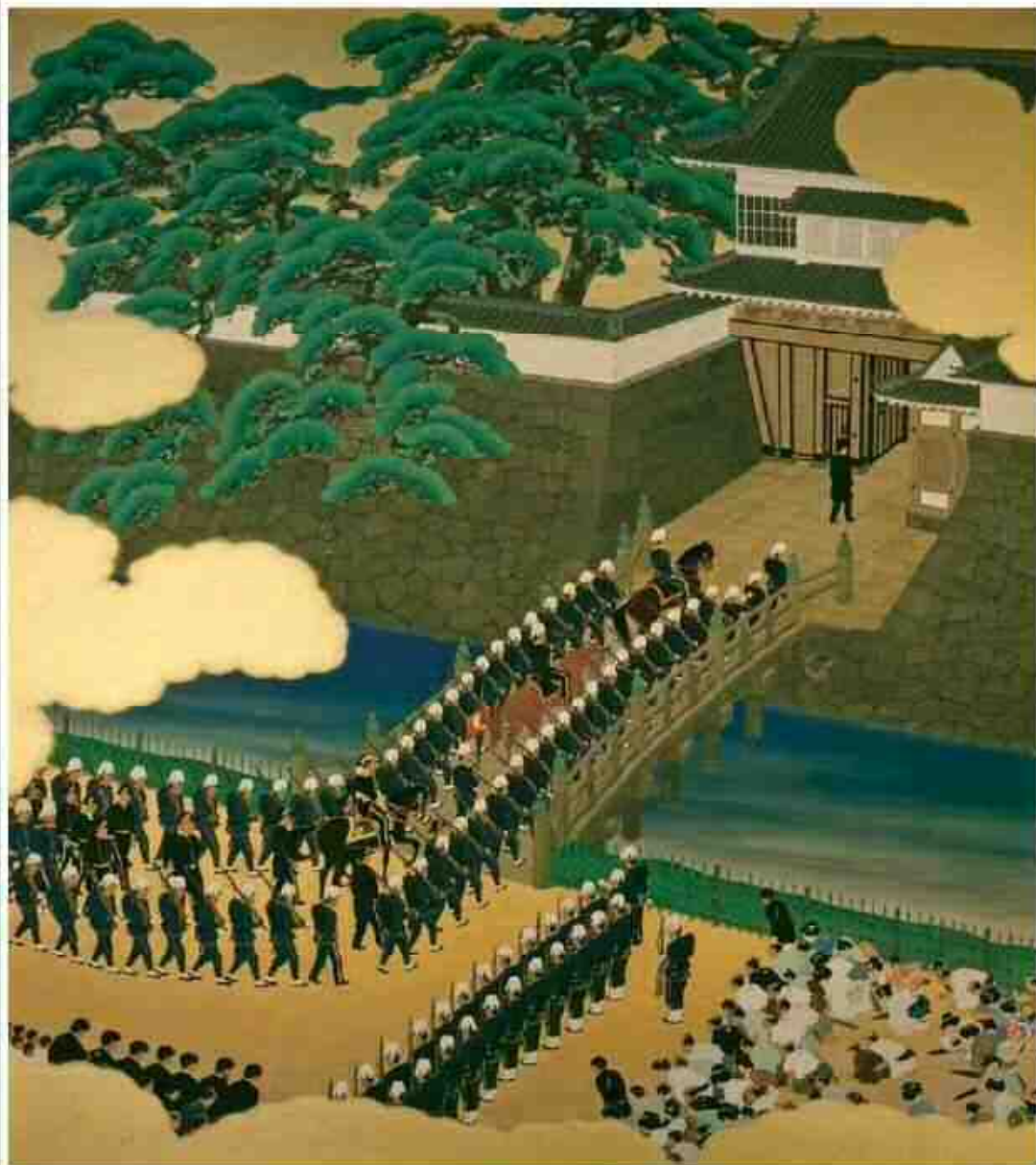
表Ⅲ-7 絵図等一覧表 (8)

<p>年代不明</p> <p>〔鹿兒島城下略絵図〕 〔薩摩風土記〕所収 出典：国立国会図書館</p>	
<p>安政 5 年 (1857)</p> <p>〔薩州鹿兒島見取絵図〕(部分) (武雄鍋島家資料 武雄市蔵)</p>	

表Ⅲ-7 絵図等一覧表 (9)

明治5年

〔中国西国巡幸鹿兒島着御〕
〔聖徳記念絵画館所蔵〕



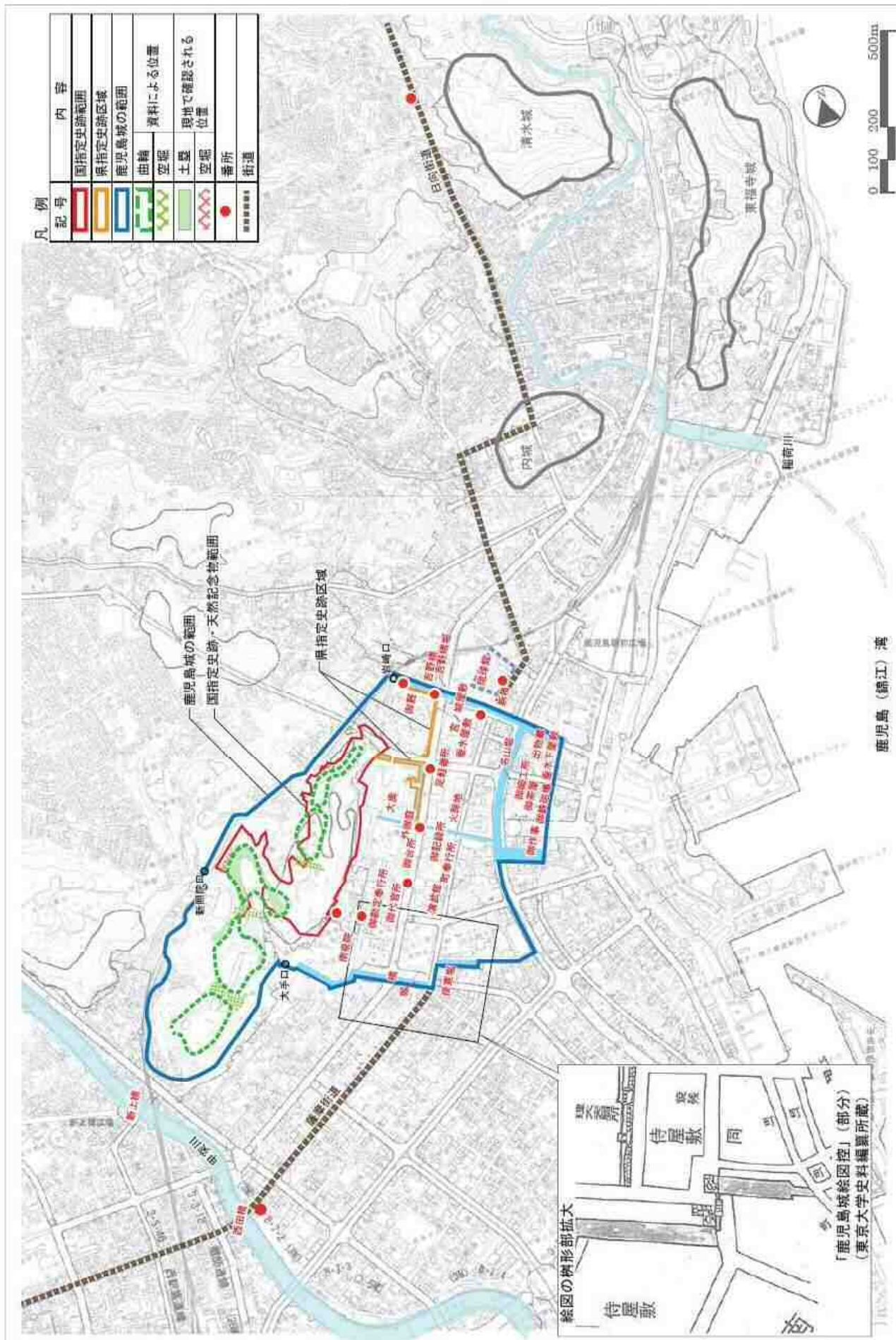
2) 廃城後の施設の変遷

廃城後の主な施設の変遷を下表に示す。内容は主に「鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(13)造士館・演武館」より年代順に整理した。次の図は現況図に天保年間の旧名称を重ねたものを示している。

表Ⅲ-8 廃城後の施設変遷表

曲輪	藩政時代の施設 (天保年間)	明治	大正	昭和	現在(平成) の施設
城山	城山	明治39年(1906) 都市公園として開設		昭和23年(1948) 観光ホテル創業	城山公園 観光ホテル
本丸	本丸殿社	明治2年(1869)知政所 明治4年(1871) 鎮西鎮台第二分営 明治6年(1873) 火災により焼失 その後鹿児島学校 中学造士館 第七高等学校造士館		昭和32年(1957) 鹿児島大学医学部	黎明館
二之丸	二之丸殿社 御台所	同上			県立図書館
	御用部屋	明治10年(1877) 西南戦争により主要な 建物は焼失		昭和13年市役所 その後市立歴史館	市立美術館
御厩	御厩	明治7年 私学校設立 明治17年頃 病院居学校 明治20年頃 官所用地 明治30年頃 鹿児島病院			鹿児島医療センター
その他	造士館 演武館	明治17年頃 裁判所、県庁	大正2年頃 裁判所、県庁		中央公園 中央公民館
	町奉行所 御記録所	西南戦争後 師範学校等教育施設 明治17年頃 議事堂、師範学校 明治20年頃 県庁、師範学校	大正2年頃 学校		名山小学校 教育総合センター

(出典：「鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(13)造士館・演武館」
「鹿児島県埋蔵文化財 発掘調査報告書(26) 鹿児島(鶴丸)城本丸跡」 一部加筆)

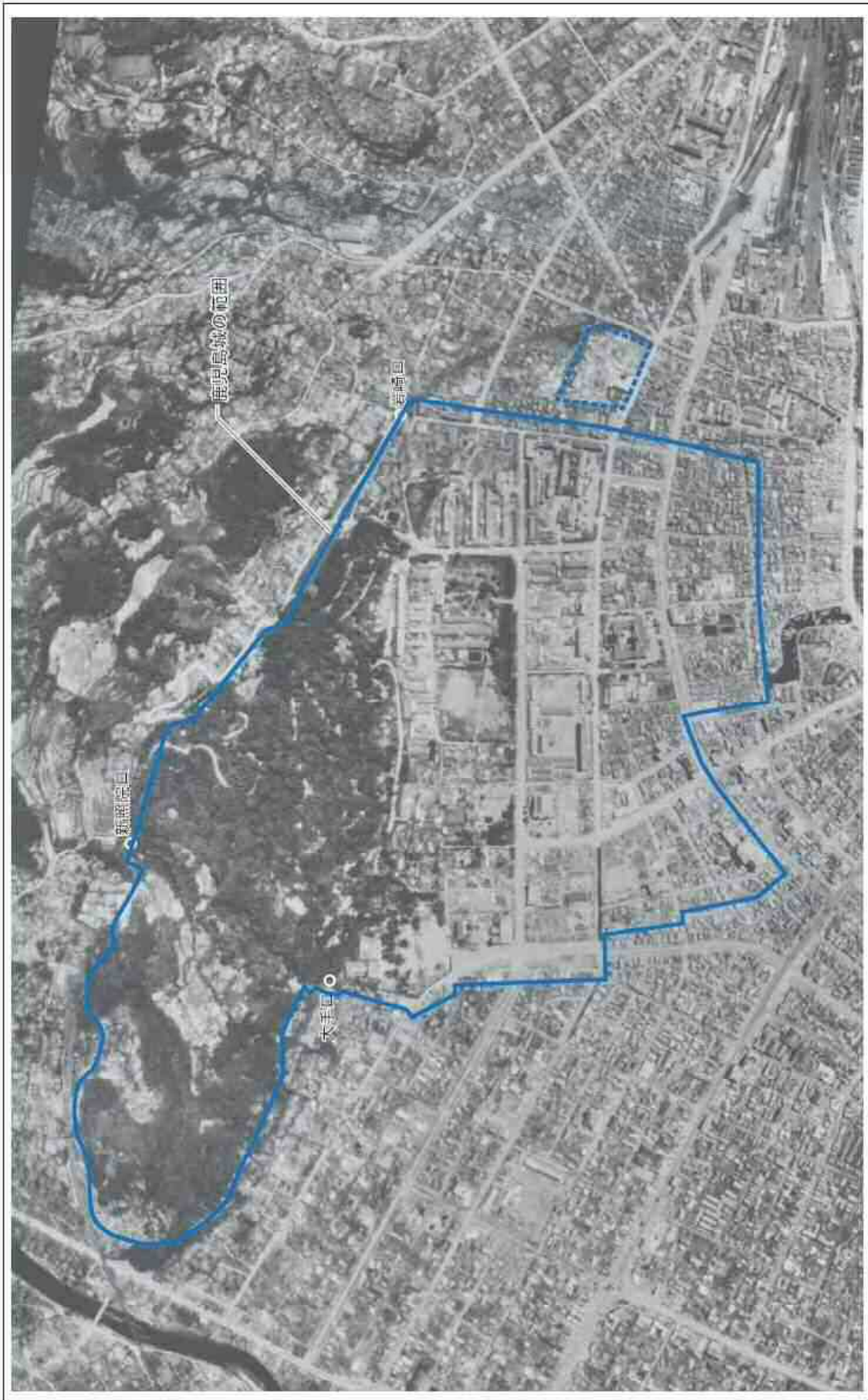


凡例	記号	内容
		国指定史跡範囲
		県指定史跡区域
		鹿兒島城の範囲
		資料による位置
		現地で確認される位置
		番所
		街道



鹿兒島（錦江）湾

図Ⅲ-21 城跡の施設等位置図

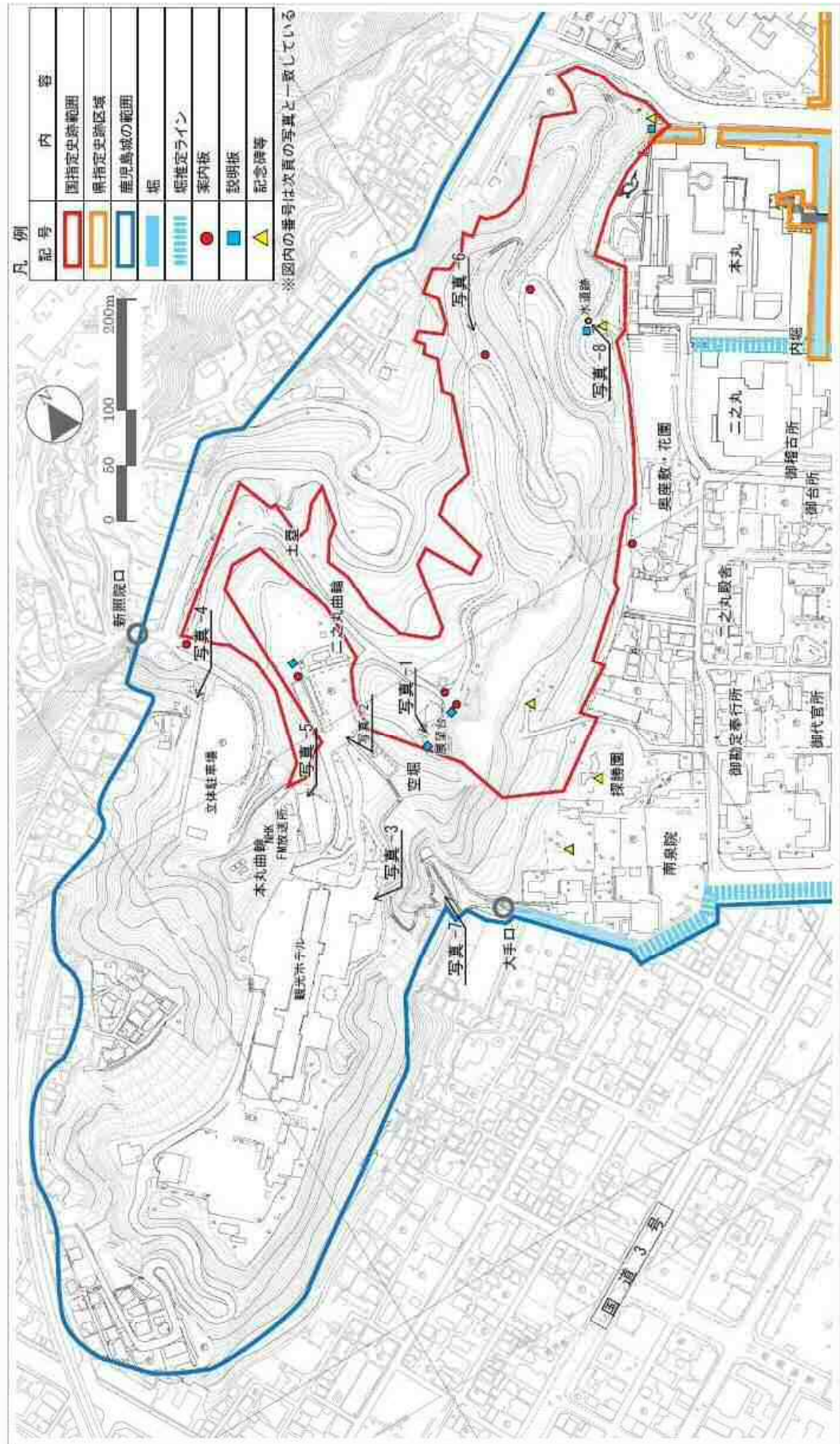


昭和23年 米軍撮影（国土地理院所蔵）

3) 城跡内の現在の施設

①城山の現在の施設

主な公共施設等の位置を下図に示す。また、代表的施設の写真を次頁以降に添付する。



図Ⅲ-22 城山の現在の施設位置図

(城山の現在の施設写真)



写真-1 展望台



写真-2 公園便益施設(駐車場、売店)



写真-3 観光ホテル



写真-4 観光ホテル立体駐車場



写真-5 NHKFM放送所



写真-6 舗装が浸食された遊歩道



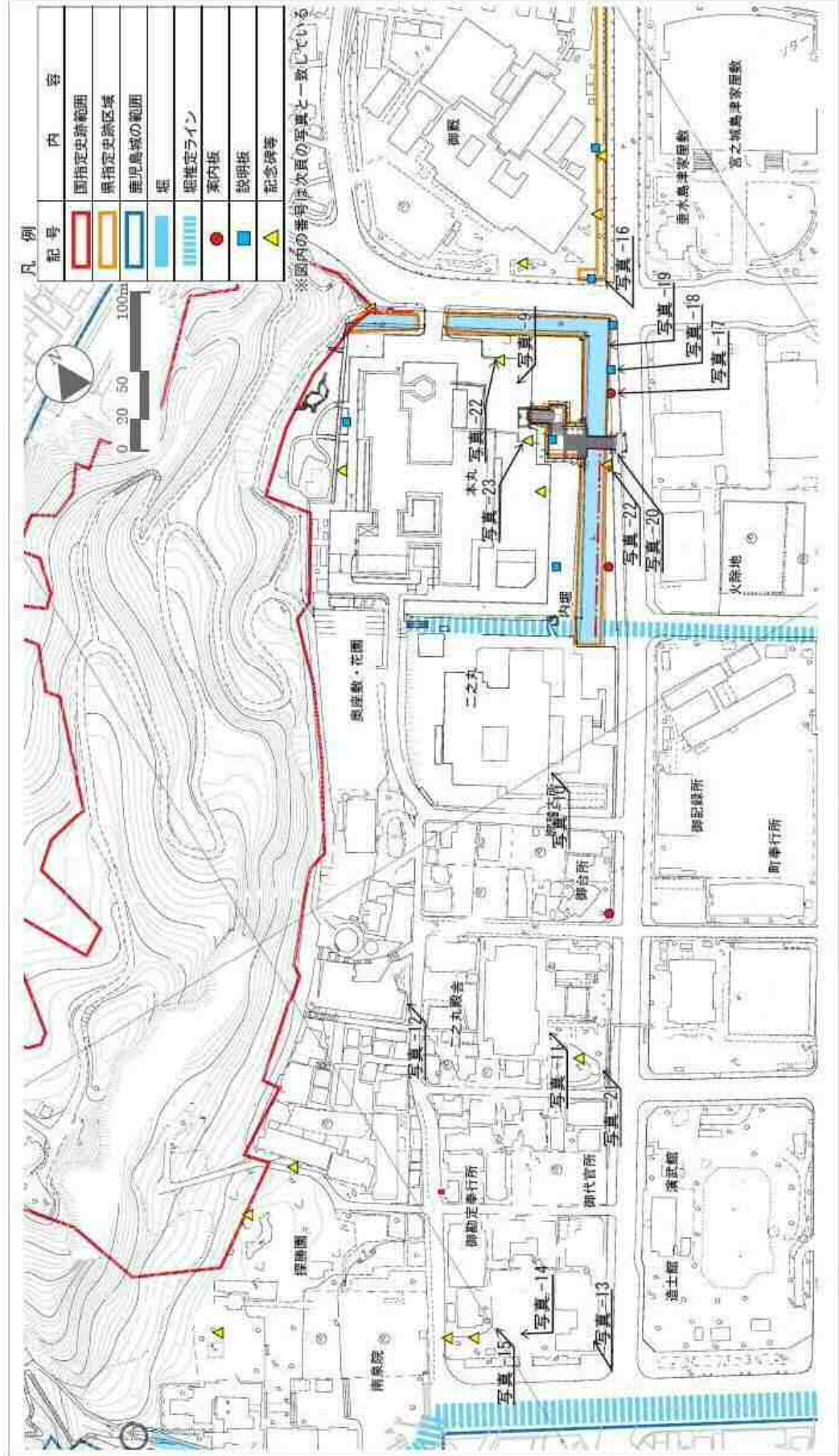
写真-7 自然石の階段と側溝



写真-8 上水道跡(近衛の水)

②本丸・二之丸・御厩の現在の施設

本丸・二之丸・御厩に整備されている主な公共建物、駐車場、公園、あるいは案内板、説明板等のサイン、記念碑の位置を下图に示す。県指定区域付近については柵等の管理施設等の位置も明記している。その中で代表的な施設は写真も併せ添付する。



図Ⅲ-23 本丸・二之丸・御厩の現在の施設位置図

(本丸・二ノ丸・御厩の現在の施設写真.1)



写真-9 鹿児島県歴史資料センター黎明館



写真-10 鹿児島県立図書館



写真-11 鹿児島市立美術館



写真-12 近代文学館・メルヘン館



写真-13 鹿児島県立博物館 (登録有形文化財)



写真-14 照国公園



写真-15 旧鹿児島県立博物館考古資料館 (登録有形文化財)



写真-16 鹿児島医療センター

(本丸・二之丸・御厩の現在の施設写真.2)



写真-17 堀沿いの観光案内板



写真-18 鶴丸城跡説明板



写真-19 堀周辺の柵



写真-20 橋上の車止め



写真-21 市立美術館前の西郷隆盛像



写真-22 石柱碑

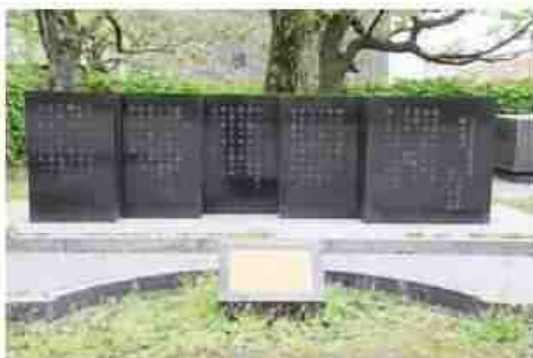


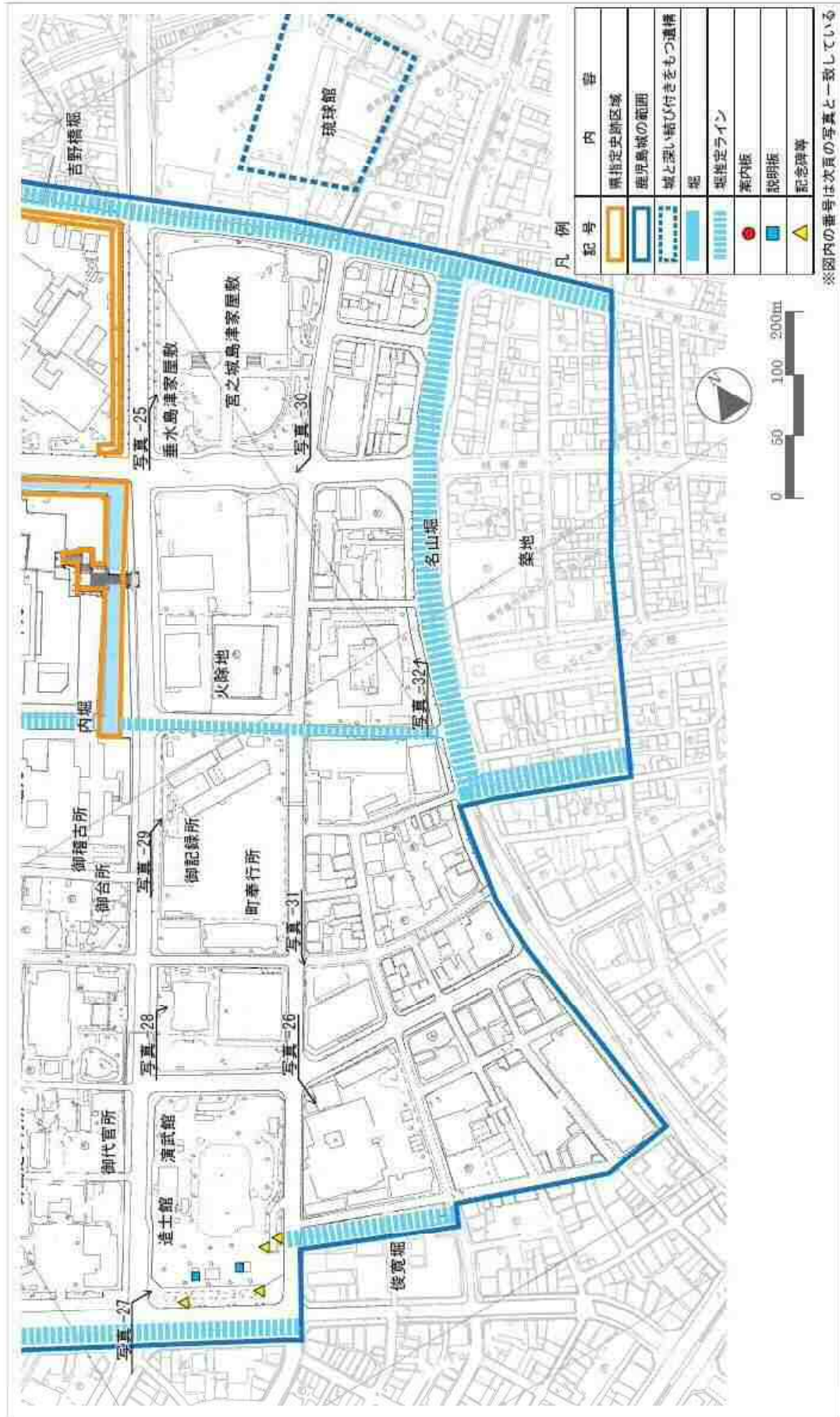
写真-23 七高歌碑



写真-24 天璋院像

③その他鹿児島城周辺の現在の施設

その他鹿児島城周辺に整備されている主な公共施設等を下図に示す。また、代表的施設の写真を次頁以降に添付する。



図Ⅲ-24 その他鹿児島城周辺の現在の施設位置図

(その他鹿児島城周辺の現在の施設写真)



写真-25 かがしま県民交流センター



写真-26 西本願寺



写真-27 中央公園



写真-28 中央公民館 (登録有形文化財)



写真-29 名山小学校



写真-30 鹿児島地方裁判所



写真-31 鹿児島東郵便局



写真-32 鹿児島市役所 (登録有形文化財)

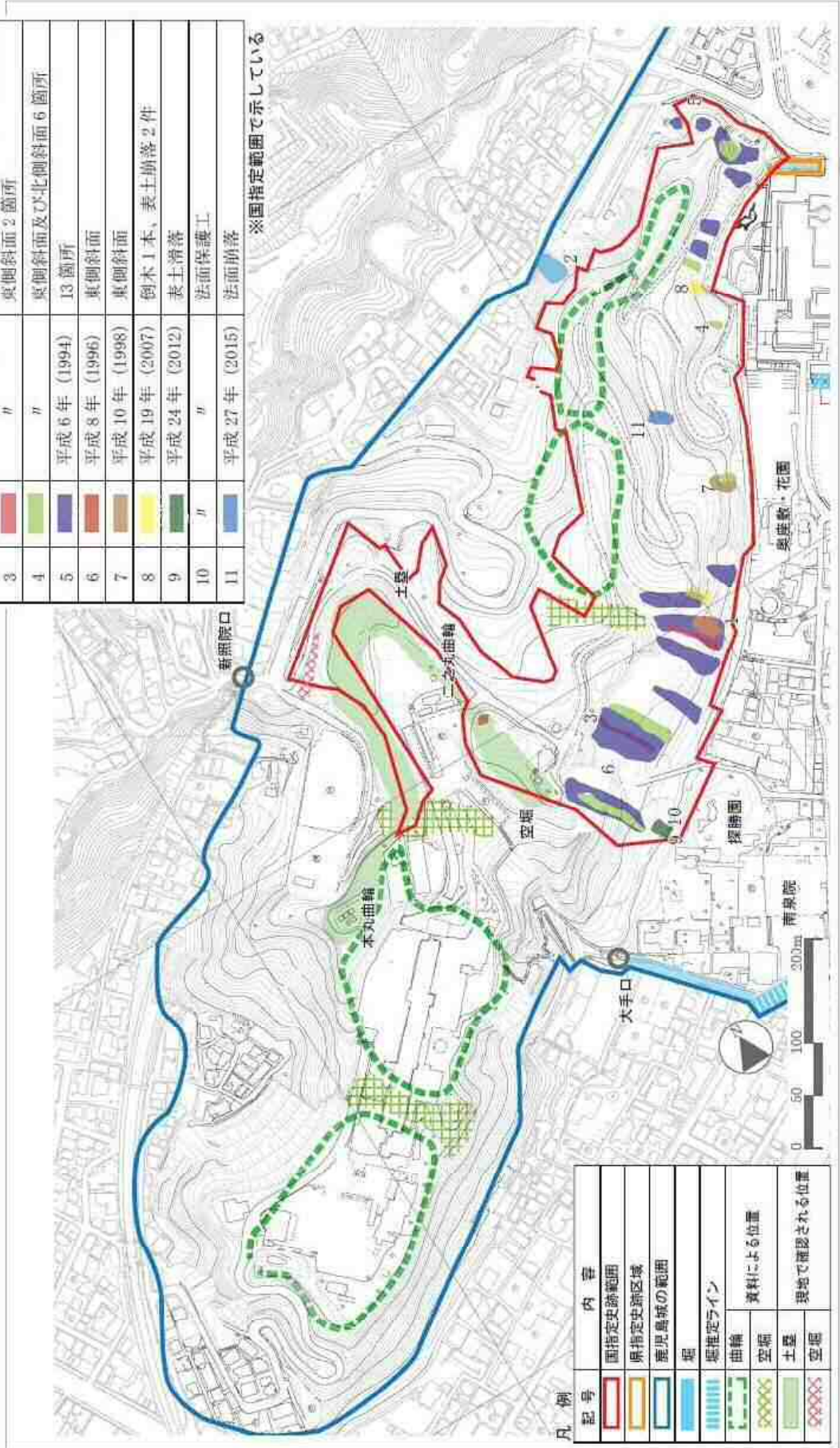
4) 昭和、平成の修理箇所と内容

①城山

城山の修理箇所

番号	記号	修理年	位置と箇所数
1		平成4年(1992)	東側斜面1箇所
2		平成5年(1993)	西側、JR城山トンネル上部1箇所
3		〃	東側斜面2箇所
4		〃	東側斜面及び北側斜面6箇所
5		平成6年(1994)	13箇所
6		平成8年(1996)	東側斜面
7		平成10年(1998)	東側斜面
8		平成19年(2007)	倒木1本、表土崩落2件
9		平成24年(2012)	表土滑落
10	〃	〃	法面保護工
11		平成27年(2015)	法面崩落

※国指定範囲で示している



図Ⅲ-25 城山の修理箇所平面図

②本丸及び二之丸（昭和以降）

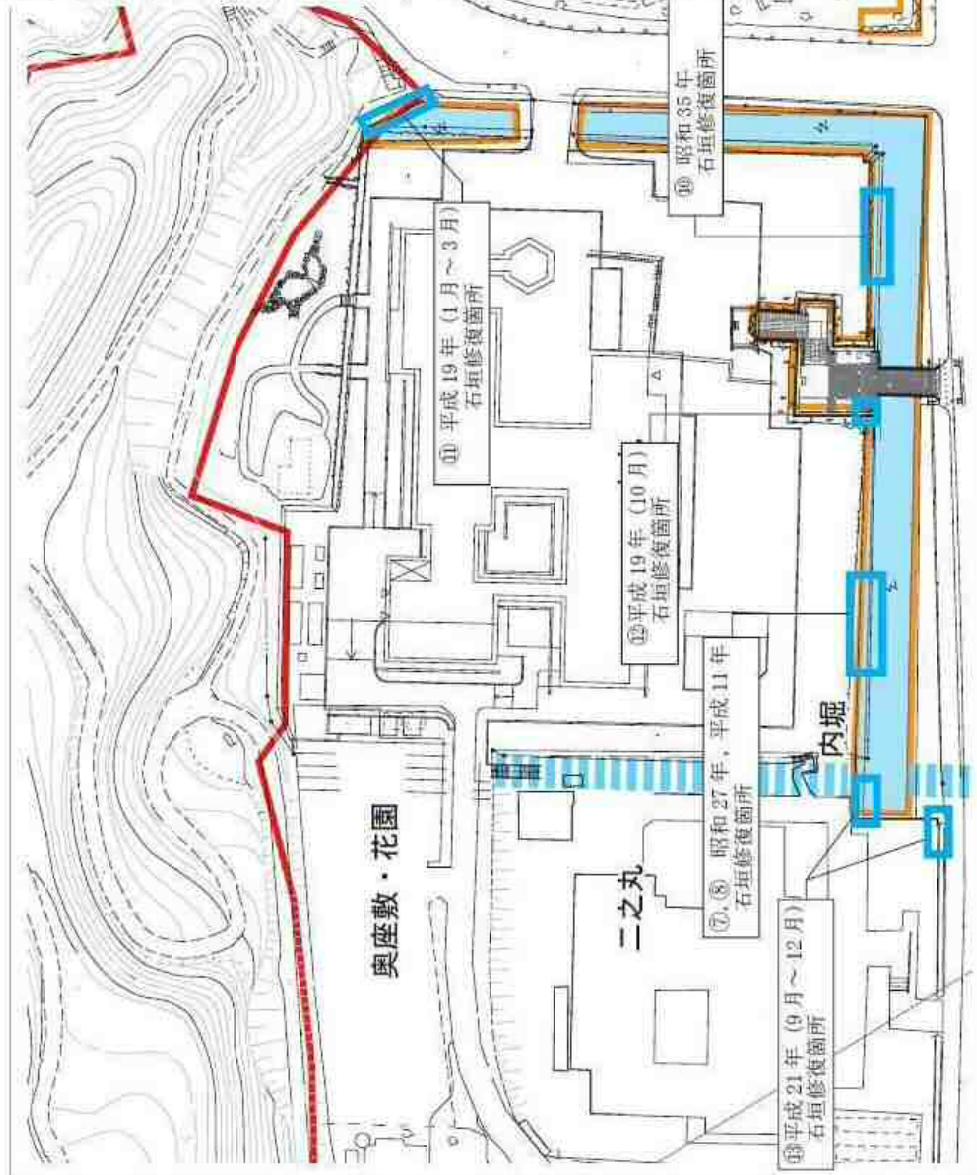
昭和、平成の石垣修理箇所と内容は「鶴丸城石垣現況基礎調査業務」を参照している。昭和以降の修理回数は7回になる。

江戸時代の石垣修理箇所

番号	修理年	位置と箇所数
①	寛永16年(1639)	修復箇所不明
②	慶安3年(1650)	本丸から見て裏(東南)の方の石垣
③	寛文4年(1664)	本丸から見て南の方の石垣2箇所
④		左面北から左方向に走る石垣2箇所
⑤	元禄9年(1699)	正面東から南方向に走る石垣2箇所
⑥		正面南から東方向に走る石垣3箇所

昭和以降の石垣修理箇所

番号	修理年	損傷の原因等
⑦	昭和27年(1952)	昭和20年に戦災のため崩壊した石垣の修復。
⑧	平成11年(1999)	上記箇所が孕み出し、変状が著しいため修理した。
⑨	昭和30年(1955)	国道10号拡張工事のため移動、積み直した。
⑩	昭和35年(1960)	地盤変動に伴う肥表の崩落、それ以前から孕み出しは確認されていた。
⑪	平成19年(2007)(1月～3月)	平成18年7月の豪雨により崩壊した。
⑫	平成19年(2007)(10月)	石垣下部に最大4～5cmの隙間が確認されたため修理した。
⑬	平成21年(2009)(9月～12月)	

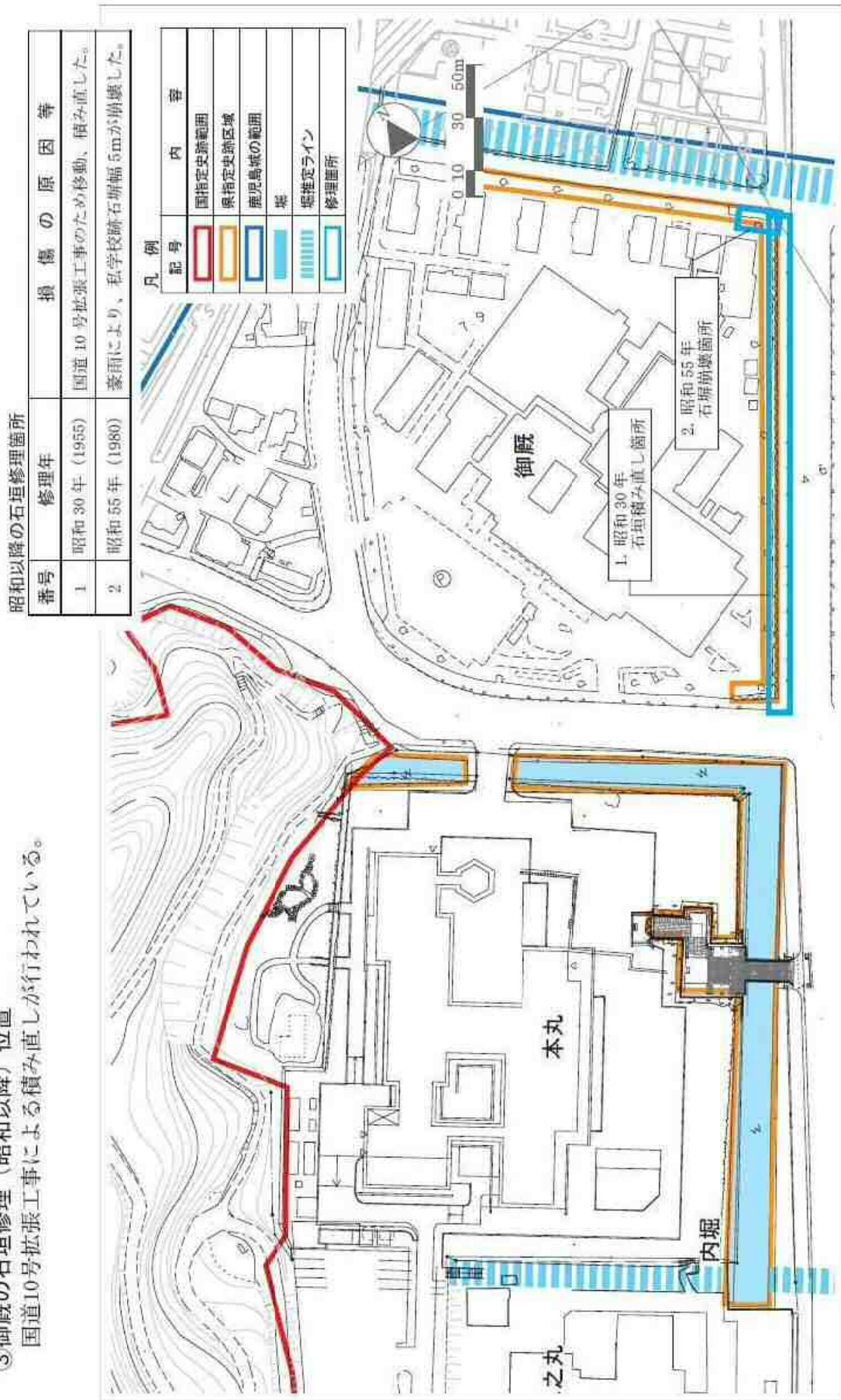


図Ⅲ-26 本丸・二之丸の石垣修理箇所平面図

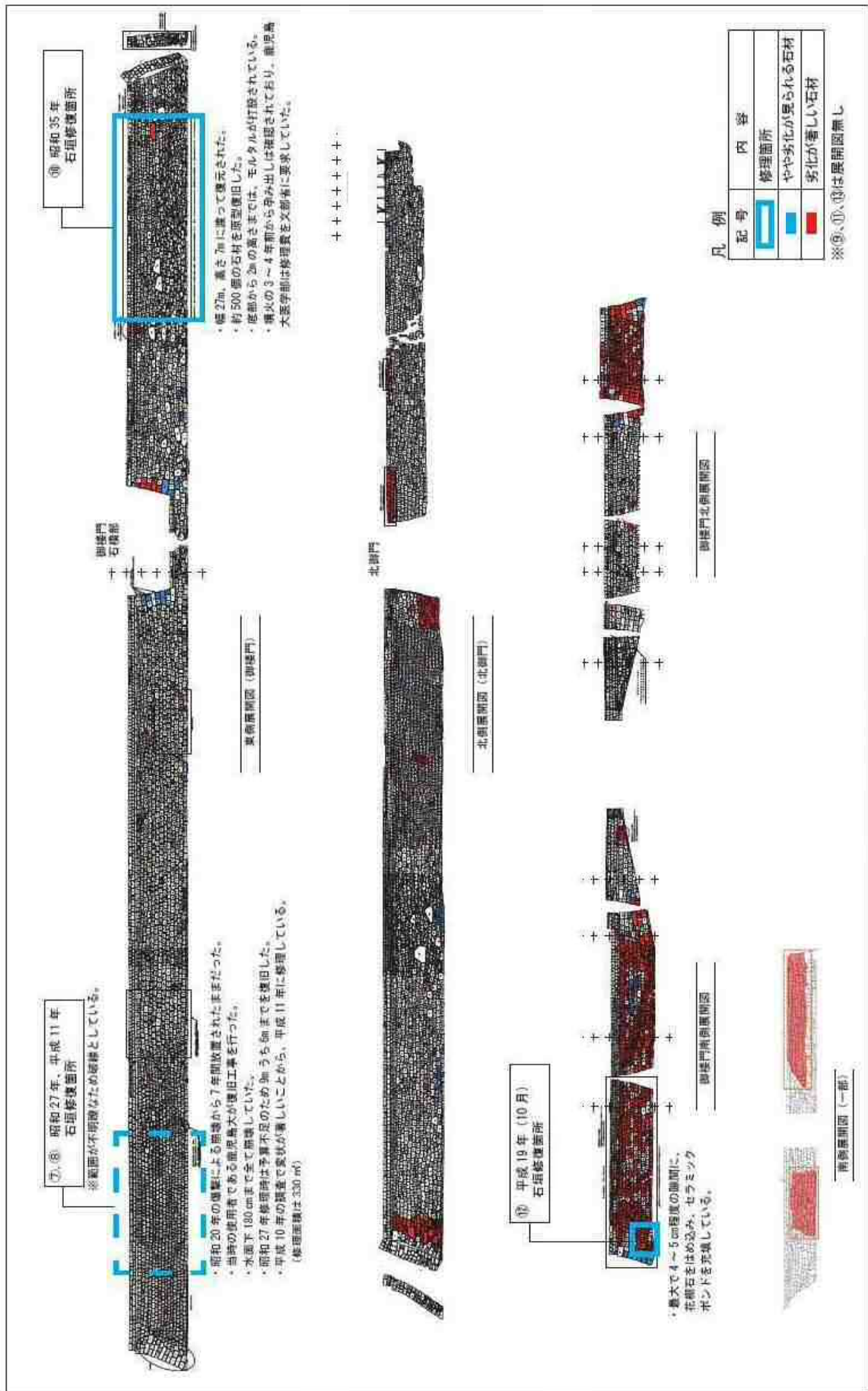
(参照:「鶴丸城石垣現況基礎調査業務」)

③御殿の石垣修理（昭和以降）位置

国道10号拡張工事による積み直しが行われている。

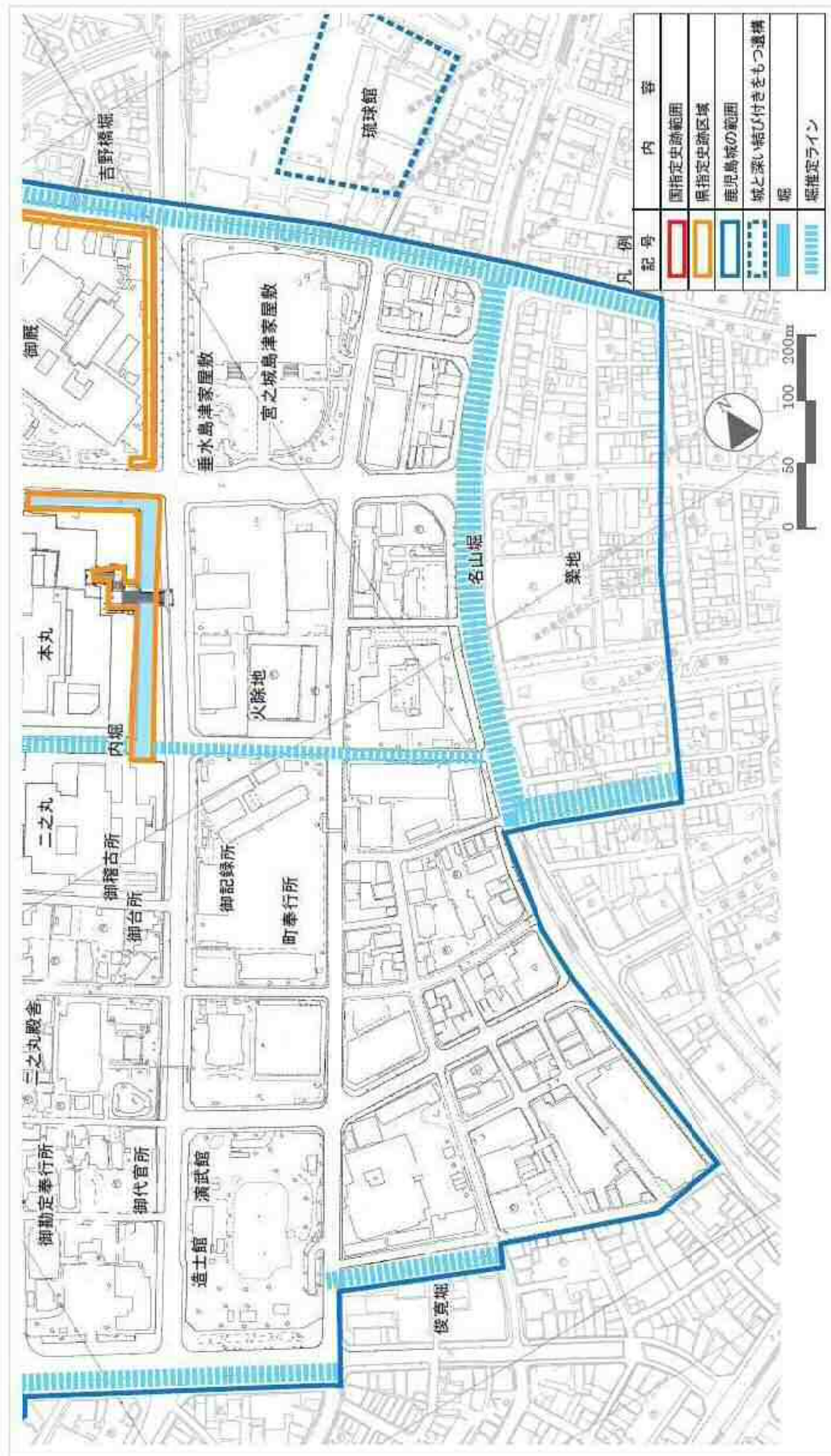


図III-27 御殿の石垣修理位置平面図



図Ⅲ-28 本丸・二之丸石垣修理位置展開図

- ④その他鹿児島城周辺の修理箇所と内容
 名山小学校周りに石堀があるが、修理記録は確認できない。



図Ⅲ-29 その他鹿児島城周辺の修理箇所位置図

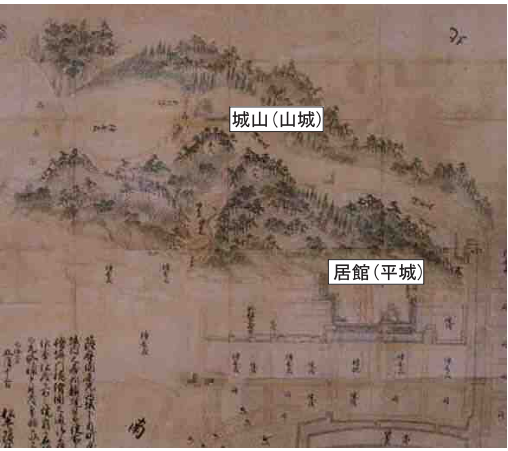

5. 鹿児島（鶴丸）城跡の特色と課題

1) 鹿児島（鶴丸）城跡の現状と特色


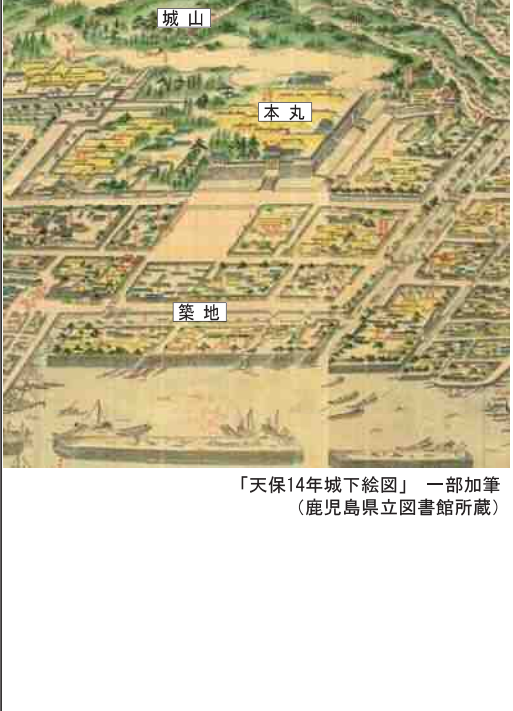
鹿児島（鶴丸）城の構成は、中世山城である上山城を詰城として取り込みながら、麓には屋形（居館）を含む平城を形成していた。本丸・二之丸は屋形造りで、築城から約90年後の元禄9年（1696）に全焼したが、再建後の姿が天保14年の城下絵図に描かれており、この状態で幕末を迎えたものと考えられる。

この鹿児島城の特色として、（1）城の成り立ちと構成、（2）屋形（居館）の充実と海外交易、（3）日本の近代化における殖産興業と歴史痕跡、が挙げられる。それぞれの特色に基づく具体的な内容として、「城の成り立ちと構成」については①鎌倉以来の守護である島津氏が重視していた山城に、居館を加えた構成の城郭であった、②山城を本城として造り、詰城としていた、等が挙げられ、さらに「屋形（居館）の充実と海外交易」についてみると、③麓の屋形造りの居館を本丸や二之丸と称するようになり、この他に御厩や役所丸、築地等で構成していた、④海に面した立地であり、交易拠点である築地が存在した、等に要約される。続いて「日本の近代化における殖産興業と歴史痕跡」では、⑤城周辺に文化的施設や人材育成施設、⑥鹿児島城には近代化産業施設等を整備した、あるいは西南戦争時の痕跡が遺っている、等が挙げられる。

表Ⅲ-9 鹿児島（鶴丸）城跡の特色（1）

特 色		
項目	形 態	内 容
① 山城に、居館を加えた構成の城郭であった 鎌倉以来の守護である島津氏が重視していた	 <p>「鹿児島城絵図控」元禄9年(1696) 一部加筆 (東京大学史料編纂所蔵)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中世城郭である上山城を詰城として活かし、本城とした。 ・ 麓には屋形造りの居館（平城）を築いた。
② 山城を本城として造り、詰城としていた	 <p>「鹿児島城絵図」元禄9年(1696) 一部加筆 (東京大学史料編纂所蔵)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家久は、上山城時代の城山本丸曲輪及び城山二之丸曲輪をそのまま活用し、南西の南西の麓に大手口、北側には新照院口と岩崎口を配した。 ・ 曲輪を囲った大土塁や空堀は現在も残る。 ・ 城山麓には、居所である館の他に侍屋敷等があった。

表Ⅲ-9 鹿児島（鶴丸）城跡の特色（2）

特 色		
項 目	形 態	内 容
<p>③ この他に御厩や役所丸、築地等で構成していた麓の屋形造りの居館を本丸や二之丸と称するようになり、</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・居館である本丸を中心にして、諸役所（役所丸）、有力な家臣の屋敷、寺社等があった。 ・歴代の藩主の下、城郭や堀の整備等がなされた。 ・冷水からの上水用水路は、城山の中腹よりやや下の位置で一旦露出（近衛の水）しているが鹿児島城に配水している。
<p>④ 海に面した立地であり、交易拠点である築地が存在した</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・海からの攻撃に対する防御機能が弱点とされたが、家久は築地を整備し、交易の拠点とすることで利点として活かした。 ・城山台地の麓に発達した段丘から沖積平野が緩勾配で錦江湾に延びている。この地形に合わせて城を築いたが、海岸部分には交易拠点となった湊や築地を整備していた。

表Ⅲ-9 鹿児島（鶴丸）城跡の特色（3）

特 色		
項目	形 態	内 容
<p>⑤ 近代化産業施設等を整備した。城周辺に文化的施設や人材育成施設、あるいは</p>	 <p>「天保14年城下絵図」 一部加筆 (鹿児島県立図書館所蔵)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近年では、本丸内（現在の黎明館敷地内）において、能舞台の遺構が発見された。 ・城周辺には、造士館や演武館、開成所等の人材育成施設があった。 ・二之丸と本丸の間で、日本初のモールス信号による交信に成功した。 ・近代化産業施設として、製錬所等の理化学実験施設を整備していた。 ・外城の麓の武家屋敷群のいくつかの庭園は、国の名勝となっているものもある。
<p>⑥ 鹿児島城には西南戦争時の痕跡が遺っている。</p>	 <p>御楼門正面石垣の基底部に遺る弾痕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石垣には、西南戦争時のものと思われる弾痕跡がみられる。 ・城山には、堡塁や胸壁等が遺っている。

2) 課題のまとめ

前項における鹿児島島（鶴丸）城跡の概要、調査、現状の中から、鹿児島島（鶴丸）城跡が抱えている保存面での課題として、

- (1) 鹿児島島（鶴丸）城跡への理解を深めることが大切である。
- (2) 遺存している遺構についても保存状況が不十分な点がみられる。
- (3) 鹿児島島（鶴丸）城跡の内容を訴える遺構が少ない。

などが挙げられ、これらの課題に対する方針や対策については次章以降で詳しく検討するが、下表にその概要をまとめる。

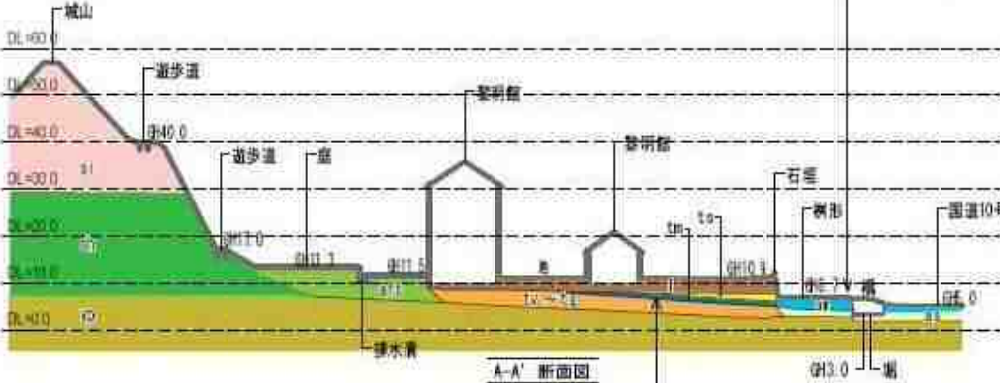
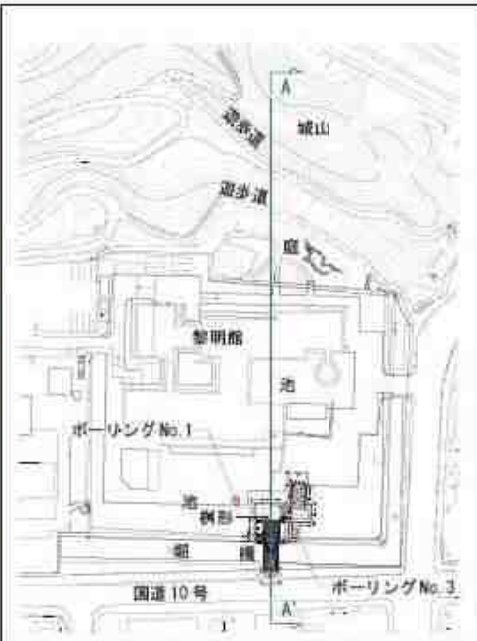
表Ⅲ-10 課題一覧表 (1)

項目		現 状
鹿児島島（鶴丸）城跡への理解を深める	法的保護が十分ではない	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島島（鶴丸）城跡の法的保護の現状は、城山の半分程度が文化財保護法による国指定史跡と天然記念物となっている。 ・この他は、本丸の石垣および堀が県指定史跡になっている。 ・なお、御厩東側一部の石垣は、私学校跡として県指定史跡となっている。 ・城跡および周辺は、周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。
	城郭の範囲が不明瞭	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島島（鶴丸）城跡は、薩摩藩独自の城郭づくりを受け継ぎ、他地域の近世城郭と異なり、城郭の範囲や、いわゆる城下に関しても不明瞭である。 ・特に城山部分については未調査箇所も多く、近世初頭の山城の特色や内容等が不明瞭である。 ・県民、市民間では、鹿児島島城より鶴丸城の名称で親しまれているが、一般に認識されている鶴丸城（本丸、二之丸）の範囲と本来の鹿児島島城の範囲は一致していない。

表Ⅲ-10 課題一覧表 (2)

項目 課題	現 状	
<p>遺存している遺構の保存状況に不十分な点が見られる</p> <p>石垣の変状や損傷</p>	<p>①自然災害（桜島の噴火）や火災（明治6年）による損傷を受けている。</p> <p>②石垣上に自生した樹木の根等が悪影響を及ぼしている。</p> <p>③排水不良や基礎の沈下により、ズレ（二之丸）や目地の開きが生じている。</p> <p>④個別の石も挫滅したものや、経年劣化したものが随所に確認されている。</p> <p>⑤明治時代に積み替えられた石垣は、石の加工や積み方が異なっている。</p> <p>⑥明治時代以降に積み替えられた石垣は、石の加工や積み方が異なり、かつ新建材等で目地詰めが行われている。</p> <p>⑦石垣天端には、笠石の上に石築地が新たに造られている。</p> <p>⑧堀の護岸や、随所に新たに造られた石垣や石壁があり、誤解を与えやすい。</p> <p>⑨明治期に建てられた施設に付帯するかたちで石垣内に石壁等がある。</p> <p>⑩石垣は西南戦争の痕跡（弾痕跡）等歴史を刻むものも数多くある。</p>	
		
	<p>①火災時の熱で角がとれ丸くなっている</p>	<p>②孕みがみられる</p>
		
	<p>③石垣天端の傾きと孕み</p>	<p>④挫滅した石</p>
		
	<p>⑤積み方が異なる部分</p>	<p>⑥新建材での目地詰め</p>
		
	<p>⑦石垣・笠石・石築地</p>	<p>⑧護岸の石垣</p>
		
<p>⑨入口を塞ぐ石壁</p>	<p>⑩西南戦争時の弾痕</p>	



表Ⅲ-10 課題一覧表 (3)

項目	現 状																																					
遺存している遺構の保存状況に不十分な点がみられる 石垣の変状や損傷	<p>①地形・地質からの課題</p> <p>本丸石垣周辺のボーリング調査資料及び、鹿児島市の主要部地形分類図（「鹿児島市・始良地区地盤図」（建設省1969））等を参考に城跡の東西方向の断面図をとり、本丸地質を検証した。</p> <div data-bbox="406 481 1300 660" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題</p> <p>シラス台地の城山の麓に小段丘があり、沖積地になっている。 石垣と堀辺りをみると、御楼門から橋にかけては、石垣基礎部分に軟弱な沖積層の粘性土が分布する。粘性土は新規の荷重に対しては、支持力不足の懸念と共に圧密沈下の懸念も想定される。</p> </div>  <div data-bbox="406 1097 1300 1299" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題</p> <p>扇状地堆積物中に難透水層とみられる粘性土が介在しており、城周辺の降雨水がこの上面を流下し、石垣背面や石垣基礎部に集水される恐れがある。 長期的あるいは異常降雨後には、水圧の発生や基礎の洗掘(細粒分の洗い出し)など石垣変状の要因となることも予想される。</p> </div>																																					
	<div data-bbox="351 1400 845 1892"> <p>地層区分凡例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地 質 時 代</th> <th colspan="2">地 層 名</th> <th>記号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現 世</td> <td colspan="2">埋土・盛土</td> <td>U</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">新 生 代 第 四 紀</td> <td rowspan="2">完 新 世</td> <td rowspan="2">沖 積 層</td> <td>粘性土</td> <td>U₁m</td> </tr> <tr> <td>砂質土</td> <td>U₁s</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">更 新 世</td> <td rowspan="3">段丘堆積物</td> <td>砂質土</td> <td>U₂s</td> </tr> <tr> <td>粘性土</td> <td>U₂m</td> </tr> <tr> <td>火山灰・礫質土</td> <td>U₂v-l</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">旧 世</td> <td rowspan="2">扇状地堆積物</td> <td>(砂質土)</td> <td>U₃s</td> </tr> <tr> <td>人戸火砕流堆積物</td> <td>シラス</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td></td> <td>城山層</td> <td>(砂・シルト)</td> <td>U₄</td> </tr> <tr> <td></td> <td>吉野火砕流堆積物</td> <td></td> <td>U₅</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="869 1344 1348 1982">  <p>断面切断位置およびボーリング位置図</p> </div>	地 質 時 代	地 層 名		記号	現 世	埋土・盛土		U	新 生 代 第 四 紀	完 新 世	沖 積 層	粘性土	U ₁ m	砂質土	U ₁ s	更 新 世	段丘堆積物	砂質土	U ₂ s	粘性土	U ₂ m	火山灰・礫質土	U ₂ v-l	旧 世	扇状地堆積物	(砂質土)	U ₃ s	人戸火砕流堆積物	シラス	S		城山層	(砂・シルト)	U ₄		吉野火砕流堆積物	
地 質 時 代	地 層 名		記号																																			
現 世	埋土・盛土		U																																			
新 生 代 第 四 紀	完 新 世	沖 積 層	粘性土	U ₁ m																																		
			砂質土	U ₁ s																																		
	更 新 世	段丘堆積物	砂質土	U ₂ s																																		
			粘性土	U ₂ m																																		
			火山灰・礫質土	U ₂ v-l																																		
	旧 世	扇状地堆積物	(砂質土)	U ₃ s																																		
			人戸火砕流堆積物	シラス	S																																	
	城山層	(砂・シルト)	U ₄																																			
	吉野火砕流堆積物		U ₅																																			

表Ⅲ-10 課題一覧表 (4)

項目 課題	現 状	
遺存している遺構の保存状況に不十分な点が見られる	<p>堀</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本丸の北側と東側の堀が保存されている。 ・ 本丸と二之丸の間の堀は埋められている（藩政期の改修による）。 ・ 城跡の範囲を示す御厩北側の堀、二之丸南側の堀は埋められ、道路となっている。（城跡範囲が不明瞭となっている一因） 	 <p>本丸北側の堀</p> <p>本丸と二之丸の間の埋められた堀</p> <p>本丸東側の堀</p> <p>御厩北の堀は道路となっている</p>
	<p>橋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 御楼門への石橋と屋形北御門への土橋の2箇所がある。 ・ 御楼門への石橋は文化7年（1810）に木橋から石橋に架け替えが行われている。 ・ 欄干の柱等に傾きが発生している。 ・ 石橋の石材に一部、コンクリート等が用いられている。 	 <p>御楼門への石橋</p> <p>北御門への土橋</p>
建物跡等	<p>（御楼門）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 礎石と床の石貼りが残されており、柱間寸法や鏡柱の寸法（91×73cm）等が調査で明らかにされている。 <p>（御角櫓）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発掘調査により位置と平面形状、古写真から立体形状が明らかになっている。 	 <p>御楼門跡の礎石</p> <p>御楼門</p> <p>御角櫓跡</p> <p>御楼門（手前）と御角櫓（奥）</p>

表Ⅲ-10 課題一覧表 (5)

項目 課題	現 状	
<p>鹿兒島（鶴丸）城跡の内容を訴える遺構が少ない</p> <p>城跡内の大部分が公共建物施設で占有されている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本丸および二之丸、御厩、その他の部分には公共建物施設が整備されている。 ・敷地の外周部や通り等に石垣が遺存している部分も随所に見られる。 ・堀跡と現在の道路の位置と重なるところが多く、名残がある。 	 <p>本丸（黎明館）</p>  <p>二之丸（県立図書館）</p>  <p>御厩（鹿児島医療センター）</p>  <p>城山（展望台）</p>
<p>遺構の所在が不明瞭である</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・城山の土塁や空堀の位置および規模、内容が分かりにくい。 ・城跡の範囲を示す堀や、橋、門の位置を示すものが現地に残っていない。 ・公共建物施設等が建設されているため、主要な地下遺構の情報を知る手がかりが少ない。 	 <p>本丸の建物</p>  <p>城山の土塁と遊歩道</p>  <p>二之丸内の建物</p>